

# 風土記の丘の花だより<sup>88</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2021年5月29日)

山からホトトギスの声が聞こえる季節になりました。風土記の丘で今年もササユリが咲きました。わずか数本ですが、皆さんが大切に見守って下さっているからだに感謝しています。これからも、毎年ササユリの花が見られるといいですね。



前回紹介したヤブムラサキから10日ほど遅れてムラサキシキブの花が咲き始めました。どちらもきれいな紫色でよく似ています。ちなみに、よく庭などに植えられるムラサキシキブと呼ばれる木は「コムラサキ」であることが多いです。実がかたまって付いて、美しいので庭木として用いられます。



たくさん咲いていたハルジオンは少なくなり、かわりにヒメジョオンが咲き始めています。姿も名前もよく似た両者です。ハルジオンは全体に毛深く、葉は円っこく見えますが、ヒメジョオンの葉は少しとがっているように見えます。花びらは真っ白で、ハルジオンのようにピンクや紫色のものは見かけません。また、ヒメジョオンの方が背が高くなります。



アカネが少しずつのびてきました。万葉植物園の入り口手前の左側に少しだけ生えています。名札を立てていますのでわかりやすいと思います。アカネは「赤根」が語源ですが、今では「茜」の字が充てられています。この草の根で布を染めると赤く染まるのでこの名前が付いています。万葉集の「あかねさす 紫野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る」はあまりにも有名な額田王の歌です。



山を歩いているとどこからともなく、生臭いような香りが漂ってきませんか？それはおそらくクリの花から流れてきているのでしょう。少し前はシイノキが似たような香りを漂わせていました。これら花びらのない花は、虫にとって魅力的な臭いを発して、ハチやアブ、ハナムグリやカミキリなどの虫を誘い、受粉してもらうのです。自然の仕組みはすごいですね。松下